

受け継がれる伝統～心やさしく 心身ともにたくましい子～

今年度も残すところあと1ヶ月となりました。学校では、それぞれの学年が今年度のまとめと次年度に向けての準備を行っています。とりわけ卒業する6年生は、6年間の小学校生活を振り返り、改めて仲間の大切さに気付いたり、自己の成長を確かめたり、支えてもらった周囲の人々に感謝したりするとともに、将来の夢について真剣に考えている様子が、様々な活動から感じられます。2月末の朝会でも数人の6年生にスピーチをしてもらいましたが、みんなが立派な西京極丸の船長として活躍してくれたこと、そして、その姿を後輩たちに見せてくれていることをうれしく思いました。

さて、本校は「心やさしく 心身ともにたくましい子の育成」を学校教育目標に掲げ、この1年間すべての教育活動がこの目標の実現に結びつくものとなるよう、取組や行事を進めてまいりました。やさしい心は相手のことを思いやる言動から生まれます。そこで、今年は全校で「ありがとう」「一緒にがんばろう」「すてきだね」などの「ふわふわ言葉」を推奨してきました。子どもたちの中に、意識は定着しつつありますが、残念ながら辛く悲しい気持ちになる「ちくちく言葉」を耳にすることがあることも事実です。また、伝え方についても、これから子どもたちとともに考えていきたいと思っています。

一方、時間・空間・仲間のいわゆる「三間」の減少により、子どもたちの体力の低下や社会性・人間関係を構築するためのコミュニケーション力の育成が全国的な課題となっています。私たちが子どもたちは、家に帰れば近所の大きなお兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒に遊び、上の子が下の子の面倒を見たり、みんなが少しずつ我慢したりするという経験ができました。このような異学年での活動は、心や体の成長にとって大切なものであり、自己肯定感や自己有用感も高めます。そこで、一例として本校では意図的に異学年で遊んだり活動したりする「たてわり活動」を通して、心やさしく心身ともにたくましい子の育成に努めています。この活動は、6年生がそれぞれのグループのリーダーとなって企画・推進しています。時には、言うことを聞かない下級生に困っている様子も見られますが、6年生の子どもたちが下級生に向ける眼差しは温かく優しさにあふれています。それは、自分たちも同じように接してもらってきたからだと思います。

伝統は、一朝一夕に創られるものではありません。一つ一つの取組を丁寧に継続して行うことで創られます。もうすぐ卒業する6年生たちの「目標をもち、仲間を大切に、粘り強く努力する姿勢」がこれからもよき伝統として受け継がれていくことを願っています。

校長 今村 ひろみ